

環境についての約束

環境意識の啓発

環境配慮商品の提供などを通じて、お客様にエコライフを提案していくとともに、従業員一人ひとりが自覚と責任をもって環境負荷の低減に取り組むよう意識啓発を行っています。

お客様とともに

環境に配慮した商品の販売

イトーヨーカドーでは、自然の中に生息する生き物と共生できるよう、農薬・化学肥料を減らすだけでなく、野生生物が生息できる田んぼをつくって、“生物多様性農業”を実践している「環境保全・自然共生型栽培米」シリーズの販売を行っています。2015年2月末現在、2アイテムの商品を149店舗で取り扱っています（取り扱いアイテム数は店舗によって異なります）。

この商品の収益の一部は産地の環境整備を行っている行政機関に寄付しています。2014年度は、「コウノトリ育むお米 コシヒカリ」の売り上げの一部約14万円をコウノトリ育成基金へ、「朱鷺と暮らす郷づくり認証米 新潟県佐渡産コシヒカリ」の売り上げの一部約22万円を佐渡トキ環境整備基金へ寄付しました。

また、産地の取り組みをお客様にお伝えし、生産者が自然環境に配慮した農業を継続できるように支援するための取り組みも行っています。

2014年度は、2013年度に続いて10組20名のお客様を「産地交流田」にお招きして、5月に「田植え式」、9月に「稲刈り式」を行いました。店舗においても、JAや生産者の方にご協力いただいて、試食やお米づくりの特徴を紹介する販売イベントを7月に開催しました。今後も、商品の販売に加えて、こうした産地とお客様を結びつける取り組みを続けていきます。



パッケージデザインは変更になる場合があります

生き物を育む取り組み例

水田・水路での江（深み）の設置	中干期も水が枯渇しないようにする
冬期の湛水	冬期も水深5cm程度を維持することで、年間を通じて生き物が生活できる環境を維持
魚道の設置	生き物が水路とほ場を行き来できるように水路を設置
ビオトープの設置	水田に湛水状態を作り、多様な生き物が生活できる環境を整備

環境についての約束

従業員への意識啓発

eco検定※取得キャンペーン

セブン&アイHLDGS.は、従業員の環境意識の向上を目的として、「eco検定」取得キャンペーンを実施しました。

このキャンペーンは、eco検定合格者に対し一定額の補助を支給するもので、2015年8月のeco検定において、グループ全体で951人(イトーヨーカ

ドー254人)が受検し、753人(イトーヨーカドー199人)が合格しました。

※ 東京商工会議所が主催している環境に関する検定試験で、正式名称は環境社会検定試験®です。

ボランティア活動

セブン&アイHLDGS.は、セブン-イレブン記念財団と協働で従業員の環境活動への参加を積極的に推進しています。例えば、セブン&アイHLDGS.とセブン-イレブン記念財団が日本の森林を育て、木質材の利用を促進することを目的に2012年6月から開始した「セブンの森」森林保全活動では、下草刈りや間伐などの森林整備ボランティア活動を行っています。2014年度は合計26回のボランティア活動を開催し、964人が参加しました。

